

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900042		
法人名	社会福祉法人 福祉楽団		
事業所名	グループホーム 杜の家くりもと		
所在地	千葉県香取市岩部 869番60		
自己評価作成日	令和3年5月24日	評価結果市町村受理日	令和3年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	令和3年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○情報公開に徹底を図るため、良い情報も悪い情報も事業所側から積極的に発信するようにしている。</p> <p>○人材育成に力を入れており、外部研修への参加を積極的に行っている。</p> <p>○ナイチンゲール看護思想を基にしたケアを実践を目指しており、お客様ひとりひとりに最善のケアが提供できるよう、利用者やご家族の声を聞き取るよう心掛けている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新型コロナウイルスで大変な中、利用者や家族の面談や外出支援等色々とスタッフ全員で工夫をしています。</p> <p>職員の向上を目指し、年間の計画をたてて内部研修を行っていますが、今年度はコロナ禍で外部研修は参加しやすく取り組んでいますが実施できていません。</p> <p>電子機器を積極的に使う事により、人手不足時フォローなどがスムーズに行えるようにし、ケース記録も電子化により家族にも情報を見やすくし、意見なども聞きやすくなっています。職員の情報共有もできています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時のオリエンテーションで法人の理念を伝えてはいる。また、管理者がユニットミーティングに参加し、介護現場での実践と理念を結びつけて語り、理念が介護の現場で実現されていることが体現できるよう働きかけている。	中途採用向け職員研修にて法人の理念を伝えてはいます。や研修や会議、管理者がユニットミーティングに参加し実践につなげています。	法人の事業が多角化し、地域密着型サービスの意義をふまえ、職員参画のもとで事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげて頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として、毎月5のつく日に地域住人に向けた『ごほんの日』を実施していたが、新型コロナウイルス感染症を予防するため、今年度は実践できなかった。感染状況を見ながら再開したい。	新型コロナ禍で活動の自粛や人が集まる事が困難な中、お便りや広報等を発信したり繋がりが切れない工夫等を考えていただきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染症を予防するため、左記の活動は実行できていない。地域の保全活動(除草作業)に参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染症を予防するため、左記の活動は実行できていない。	新型コロナ禍でリモート接続が全部ができるとは限らないので、大変だと思われれます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	香取市地域密着型サービス連絡会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、開催は見合わされ、書面による情報交換を行った。	新型コロナ禍で感染予防等で書面により情報交換が実施されていますが、今後は行政や地域事業所等リモート会議等で実施されることも期待します。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時のオリエンテーションで虐待と身体拘束について講義を行っている。また、7月～8月にかけて全介護職員に対して、虐待と身体拘束のoff-JTを開催した。身体拘束を行っている利用者はいない。	身体拘束を行わないケアの実践を全職員が意識して支援を行っています。また、入社時や定期的に研修等も行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時のオリエンテーションで虐待と身体拘束について講義を行っている。また、7月～8月にかけて全介護職員に対して、虐待と身体拘束のoff-JTを開催した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時のオリエンテーションで選択と自己決定及び権利擁護について講義を行っている。生活保護受給利用者が入所しており、生活相談員が中心となって、行政機関とのやり取り等、本人のサポートを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	生活相談員が、入所申し込み時や入所契約時に契約内容・料金・重要事項の説明を行っており、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人から定期的に、利用者本人またはご家族に向けた『お客様アンケートをハガキ』を送付している。頂いた意見・要望は回答内容を施設内に掲示・公開している。	コロナ禍で直接の面会できない中、定期的に利用者本人またはご家族に向けたお客様アンケートを実施し意見や要望は回答内容も施設内に掲示し・公開をし運営等に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、リーダー会議を開催し、管理職も参加している。事業計画は、職員の意見を基に計画している。	管理職も参加し、毎月リーダー会議を開催しています。職員の意見も事業計画等に反映させて、より質の向上と職員の意欲向上を目指しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員一人ひとりに働き方の意向調査を行っており、職員は、ライフスタイルに合わせた労働時間が選択できる環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、外部の研修を受ける機会はほとんどなかった。法人内部研修では、感染症に関する勉強会の場を多く設け、感染症に関する教育を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症予防のため、他事業所の職員と交流する場は設けられなかったが、感染症予防に関する対策方法について、情報交換は行っていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人や家族等から生活習慣・生活歴等を聞き、入所後も、これまでの生活が継続出来るよう努めている。本人の不安や思いなど、傾聴し安心して生活して頂けるよう関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活相談員が中心となって、家族等の思いや要望について、ヒアリングしている。その情報は介護職員とも共有し、家族等との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、生活相談員が中心となって、病院の相談員や居宅のケアマネジャーと連携をとり、入所時のケアプランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『本人の持てる力』に着目し、生活動作（テーブルを拭く、洗濯物をたたむ等）が継続して行えるよう関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電子媒体を活用したケア記録を取り入れ、家族等は自分のスマホ等からいつでも、その本人の生活の様子を閲覧することができる。また、家族等はその記録にコメントすることができ、職員とも、やり取りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに入所した後も、これまで通い続けていたデイサービスに顔を出せるよう、関係が途切れないように支援していた。	『ごはんの日』で訪れた近所の方や友人と交流できるよう支援出来ていましたが、コロナ禍で中止になっており、デイサービスの利用者に顔を出せるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は、主に介護職員が把握し、その必要性に応じて介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから同敷地内の特別養護老人ホームに入所してサービスの利用が終了しても、生活相談員や介護職員は情報等を共有し、継続的に支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段、本人が話している内容から要望や希望、意向を聞きケアに反映している。意志を訴える事が難しい方は、普段の様子をケア記録に残し、他職種と話し合い、意向に添えるよう努めている。	長く入所している方が多く、意志を訴える事が難しい方も増えてきていますが、普段の様子をケアに記録を残し、他職種と話し合い、意向に添えるよう色々と工夫をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活相談員や介護職員は、本人や家族等から、これまでの生活歴など聞いた内容を、電子媒体のケア記録に記入し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活相談員や介護職員は、本人の普段の様子を電子媒体のケア記録に記入し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当が中心となり、その利用者にあった介護計画を作成している。また、毎月1回、モニタリングを行い、ケアプランの内容を確認し、変更している。ユニットミーティングや職員間の申し送り等でケア内容について、共有や確認を行っている。	ケース担当者を中心に本人、家族、関係者話し合い利用者一人ひとりに合った介護計画を作成、毎月評価を行い実践については項目が細分化されている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子について、電子媒体のケア記録に記入し、職員間で情報を共有している。また、ケア内容に変更があった場合等は、申し送り等で発信している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所後も馴染みの人と会えるよう、他サービス職員と協議し実現できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、本人を交えた地域活動への参加はできなかった。今後、地域の保全活動等に参加していきたいと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の往診が月1回ある。歯科医の往診も適宜対応している。精神科の往診は、月1回ある。	協力病院と精神科・皮膚科は月1回、歯医者には週1回の往診があります。かかりつけ医への受診は基本的に家族が行っていますが、職員が付き添う場合もあり、その時は経過報告を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化がみられた際や気になる点については、担当看護師に報告・相談し情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の生活に着目して、生活相談員や看護師が、担当医師に状況を確認し早期の退院に向けて情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事前に説明をしている。状態が低下した際には、担当職員・看護師・家族等を交えて面談の機会を設けており、本人が安心して生活を送れるよう対応を検討している。	看取りは行っており、契約時に説明を行い、同意書をとっています。早い段階から本人・家族等の話し合いを行い、体調悪化時には家族とこまめに連絡を取っています。職員に対しても内部研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師から今後予測される事や、考えられることを介護職員に伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと、年2回火災・地震を想定した総合防災訓練を実施している。また、定期的に夜間を想定した訓練も実施している。	奇数月は夜間想定・偶数月に放送訓練を行うことにより毎月訓練は行っています。避難場所にはなっていないが、災害時に支援が必要な人は受け入れられると行政に伝えてあります。訓練時に備蓄の水や食材等を利用し、新しい備蓄と入れ替えを行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人独自の『マナーアップ5カ条』を入職時のオリエンテーションで伝えており、言葉かけは敬語で話すよう伝えている。職員は、勤務前にマナーアップ5カ条の読み上げを行っており、ひとりひとりを尊重した対応をしている。	職員は毎日の勤務前にマナーアップ5カ条の読み上げを行い、日々言葉かけは敬語で話すよう気をつけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様ひとりひとりの話しを傾聴し、可能な限り実現できるよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お部屋で過ごしたい方はお部屋で過ごして頂くなど、個々のペースで生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方には、その日の服を選んで頂いたり、職員と一緒に選ぶよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットでご飯を炊いており、ご飯の炊ける匂いを感じて頂いている。苦手なメニューに対しては、代替え食を用意し提供している。食後の片付けやテーブル拭きなど出来る範囲で行って頂いている。	各ユニットでご飯を炊いており、匂いや音を感じ一人ひとりが食事を楽しむ工夫がされており、利用者ができる事はできる範囲で行ってもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分摂取量が低下している際は、チェックを行っている。また、食事形態の見直しやご本人の好むものをご家族に依頼し持ち込んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。 週1回歯科医の往診もあり、必要に応じて診察して貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時での声掛け・排泄介助ではあるが、個別の排泄パターンを把握し個別に支援している。排泄アイテムも個々の尿量に合わせた物を選定し支援している。	排泄担当があり、個別のパターン把握し、なるべくトイレで排泄をしてもらえるように、介助でトイレで座り排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士がバランスの摂れた献立を立てている。また、水分を多く摂って頂けるようご本人の嗜好に合わせた水分提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿った湯温・時間で入浴して頂いている。	入浴は週2回としていますが、もっと多くなどの要望があれば検討できるようになっています。イスに座ったまま入浴出来る様にし、利用者負担が少なくなる様色々配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調の応じて休息する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	『内服6カ条』に基づいて内服介助を行っている。また、内服方法の検討など看護師と相談して行っている。内服薬の変更があった際には、継続的に経過観察を行い他職員とも情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の生活歴の中から特技を活かし、料理が好きな方には一緒に調理をする機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染症予防として、車を使用した外出は行っていない。中庭を散歩する等、出来る範囲で外気に触れる機会を設けている。	コロナ禍で、皆で車を使用しての外出や外食等を行っておらず、出前を取って中庭で食べたり、近所の散歩等で外に出る機会を多く作っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に沿って、お金を自己管理されている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおり自由に電話をしている。携帯電話を持っていない方に対しては、本人の希望に応じて電話をかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気でも照明も光が強すぎないように配慮している。テレビの音量も大きくなり過ぎないように、また、番組内容にも気を配っている。 リビングの設えは、季節感を感じて頂けるよう、装飾の工夫をしている。	施設はユニットごとに、季節感を感じられるよう工夫しており、ガラス越しに畑や庭の桜や季節を感じる事が出来ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースやリビングにて気の合う利用者様同士が過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた食器や自宅で使っていた馴染みの家具類を持ち込んで貰い居心地の良い空間を創っている。	居室は一人ひとりのお家であり、好きな物や家族の写真等が飾られており、衣替えは家族にも協力してもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内服薬や洗剤類は鍵付きの戸棚で管理するよう取り決めをしており、利用者様が安全に生活できる取り組みをしている。		